

「連結決算は難しい」「連結決算はわかりづらい」「連結決算は苦手だ」「連結人材がなかなか育たない」など、多くの会社で連結人材育成に関する同じような悩みごとを抱えているようである。最近では、さらに人手不足や働き方改革の影響もあり、連結人材を内部で育てるのをやめ、連結決算自体をアウトソーシングする会社も増えてきている。

しかし、連結決算作業をアウトソーシングしたからといって、社内に連結決算を理解している人材を置いておかなくてもよいという話ではない。連結決算に関

する作業をアウトソーシングしているだけであって、連結決算の本身は社内のメンバーがしっかりと理解し、社内の意思決定者や社外の利害関係者に説明しなければならぬ。やはり自社の連結決算を理解している連結人材を育てるには必要があり、そのためにはどのようなプロセスで勉強を進めればよいのか、また、連結人材が育たない原因が自社の連結決算作業プロセスにある場合、どのように連結決算業務を整理していけばよいのかなど、連結決算業務の勉強法と、整理法について、一緒に考えていくことにする。

第1章

連結財務諸表等の作成に関する理解を深める 連結決算業務に携わる 人材に必要な知識

【この章のエッセンス】

●本章では連結決算業務に携わる人材に必要な会計情報について記載する。

●連結貸借対照表、連結損益計算書のみならず、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書も作成する必要があることに留意し、これらの会計情報の関連性について理解する。

●連結キャッシュ・フロー計算書の作成方法および表示方法について理解する。

●セグメント情報の必要性、連結財務諸表との関連性について理解する。

連結決算業務で 作成すべき会計情報

上場企業なのか未上場企業なのか、上場準備企業なのかによって、連結決算業務におけるゴールは多少差があるが、ここでは上場企業を前提として「有価証券報告書」を最終成果物と整理する。上場企業における連結決算業務を通じて作成す

べき会計情報は図表1のとおりである。

(図表1) 連結決算業務で作成すべき会計情報

- ・連結財務諸表(連結キャッシュ・フロー計算書以外)
- ・連結貸借対照表
- ・連結損益計算書
- ・連結包括利益計算書
- ・連結株主資本等変動計算書
- ・連結キャッシュ・フロー計算書
- ・セグメント情報
- ・その他注記情報

まな会計情報を作成する必要がある。連結財務諸表のうち、連結キャッシュ・フロー計算書と連結貸借対照表等の連結キャッシュ・フロー計算書以外の連結財務諸表の作り方は大きく異なるため、この後の説明においては、連結財務諸表(連結キャッシュ・フロー計算書以外)と連結キャッシュ・フロー計算書とに区分説明する。

セグメント情報は連結財務諸表の注記情報の1つではあるものの、連結貸借対照表・連結損益計算書の作成と密接に関わっているため、他の注記情報とは分けて記載している。実際の実務上でも、セグメント情報は連結貸借対照表・連結損益計算書と同タイミングで作成していること